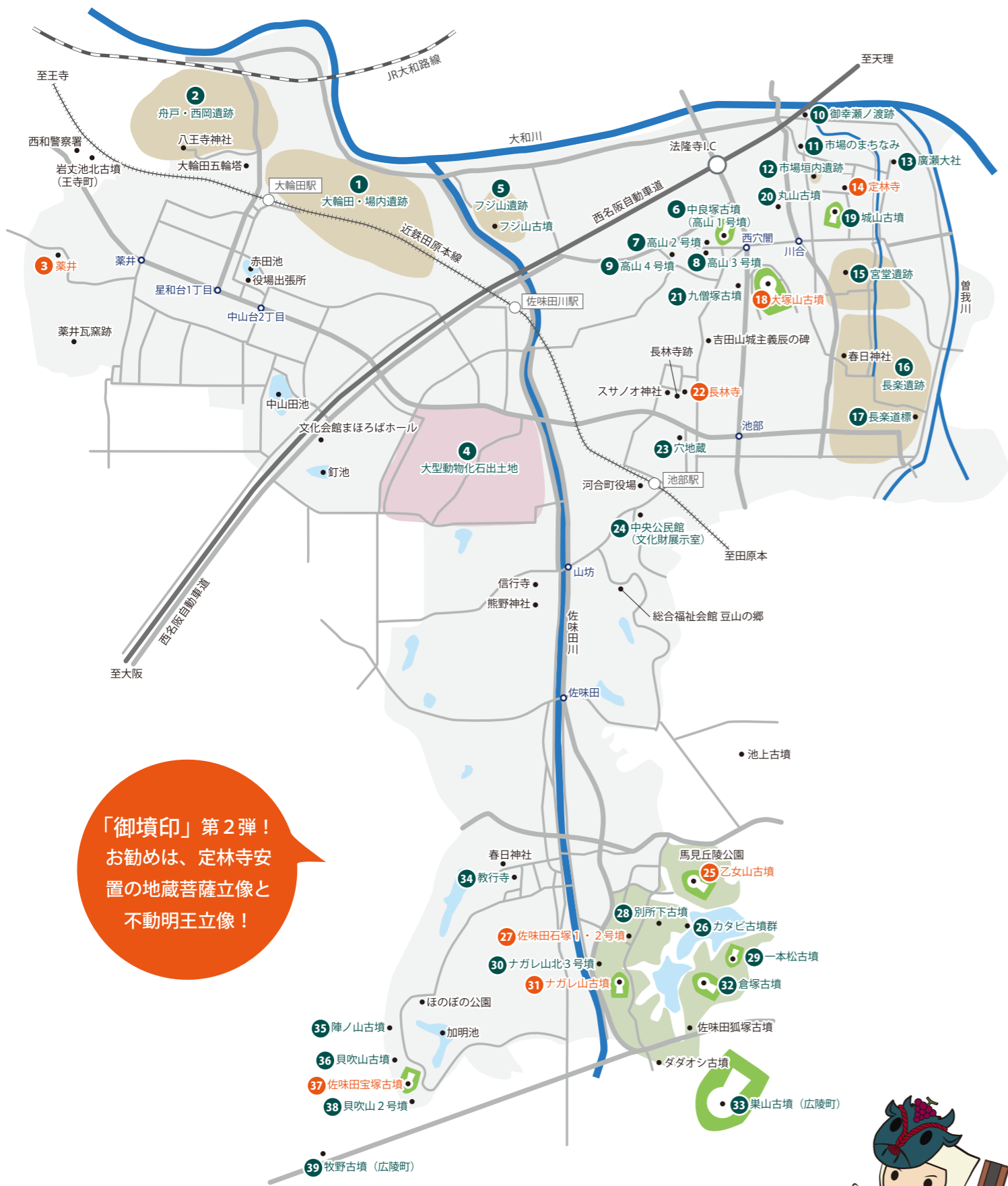


河合町古墳と史跡のマップ

河合町には、遺跡や古墳、また歴史的建造物が数多く残されています。知れば知るほど河合町がキニナル！



問い合わせ 河合町役場 広報広聴課 奈良県北葛城郡河合町池部 1-1-1 ☎0745-57-0200
生涯学習課（中央公民館内） 池部 2-13-1 ☎0745-57-2271



1 大輪田・城内遺跡

大輪田・城内地域には中世の豪族大輪田氏の大輪田城があったと伝えられています。この地域の畑地に、中世以降の遺物が多く出土しており、現在も土塁の跡や地名にその名残が感じられます。

2 舟戸・西岡遺跡

河合町と王寺町にまたがる舟戸山の頂部を中心に形成された遺跡です。平成5年度に実施された山頂付近の調査では弥生時代後期の建物跡が確認されており、高地性集落であった可能性が考えられます。また、この遺跡は大和川を望む位置にあり、当時の交通の要衝をおさえていたと推測されます。

3 薬井

石の井筒を施した掘り抜き井戸。むかし、この村に行脚でやってきた弘法大師が掘ったと伝えられている井戸で、眼の病気によく効く薬水とも言われてきました。

4 大型動物化石出土地

今から130～140万年前のものと推定される長さ158cmのシガソウ（旧ゾウ）の門歯（象牙）。大正15年（1926）2月10日、穴闇西山のブウ畑を開墾中に、現在の河合第三小学校の南側付近で見つかりました。他にも河合町で5箇所、となりの上牧町では2箇所から大型動物の化石が出土しています。

5 フジ山遺跡

佐味田川と大和川の合流する位置から旧石器時代のナイフ型石器や、剥片が発見されました。遺跡の詳細はまだ謎ですが、採取された石器などから、遠い昔、私たちの祖先が、ここで確かに生きていたことを教えてください。また、遺跡内には、直径約40mになる大型の円墳「フジ山古墳」があります。

6 中良塚古墳（高山1号墳）

二段築成で墳丘全長88mの前方後円墳。5世紀後半の築造。「中良塚」は「穴闇塚」の転訛と考えられています。

7 高山2号墳

発掘調査によりもとの規模は直径約35mと推定される円墳です。周濠部から人物埴輪や、動物埴輪の一部が出土しています。

8 高山3号墳

発掘調査によりもとの規模は直径約30mと推定される円墳です。周濠部から滑石製勾玉が出土しています。

9 高山4号墳

現在は東西18m、南北12mほどの規模ですが、もとは直径20m以上の円墳であったと見られます。

10 御幸瀬ノ渡跡（川合浜）

かつて大和川水運が盛んだった頃、現在の御幸橋付近に渡しがありました。この船着場は「川合浜」とも呼ばれ、舟運の中継地として栄えました。御幸瀬の名は飛鳥時代に天武天皇が廣瀬神社と龍田神社へ行幸したこと、または、奈良時代に元明天皇が廣瀬神社へ行幸したことによると伝えられています。



11 市場のまちなみ

大阪湾と奈良盆地を結ぶ重要な交通路であった大和川沿いには、川合浜と呼ばれる船着き場（現在の御幸橋付近）がありました。多くの物資や人が行き交う御幸ヶ瀬の南側では、市が立ち並び、多いに賑わったことから「市場」と呼ばれるようになりました。現在でも残る古い街道沿いには水運で栄えた当時の面影が残っています。

12 市場垣内遺跡

城山古墳の北側に位置する一辺約40mの規模で周囲に濠を巡らせた中世環濠館跡。戦国時代の吉田山城守義長の館であったとされ、発掘調査で中国や韓国の陶磁器の破片が多く出土し、はるか西方の国々と結びつく水上交通の要衝であったことが分かります。市場垣内遺跡は日常生活の場として、近接する城山古墳は戦時の際の砦であったと考えられています。

13 廣瀬大社

創建年代は不明ですが、『日本書紀』の天武天皇4年（675）の条に「大忌神を廣瀬の河曲に祀らしむ」とあり、龍田の風神と共に国家的な神事が営まれていました。『河相宮縁起』では崇神天皇の時代に創建されたと伝えられ、7世紀以前にも何らかの信仰があったようです。祭神は若宇加能売命で、水の神・五穀豊穡の神として広く信仰されています。現在の本殿は、江戸時代の中頃の正徳元年（1711）の造営で、一間社春日造の様式をよくつたえるものとして、昭和63年3月22日、奈良県指定文化財（建造物）に指定されています。毎年2月11日に行われる砂かけ祭りは、雨に見立てた砂をかけあい五穀豊穡を祈願する大和の奇祭のひとつとして有名な祭りで、平成21年12月11日に河合町無形民俗文化財に指定されました。

14 定林寺

廣瀬神社の西側、城山古墳の北側の小寺院。廣瀬神社所蔵の『和州廣瀬郡廣瀬大明神之圖』では、現在の宮堂遺跡の位置に聖徳太子建立の寺院として七堂伽藍が描かれています。

15 宮堂遺跡

縄文時代から集落が形成されていた宮堂遺跡からは、飛鳥時代以降の須恵器や、古瓦の破片が出土し、和州廣瀬郡廣瀬大明神之圖が示す大規模な寺院が存在した可能性がります。

16 長楽遺跡

平安時代に長楽周辺にあったとされる荘園「小東庄」に関係する遺跡です。春日神社の南側で、平安時代の葺帯の飾り「石帯丸柄」が出土しており、この辺りの荘園を管理する荘館があったと見られています。また、春日神社の東側に長楽寺があったとされています。

17 長楽道標

もとは曾我川左岸（西岸）の堤防上にあった道標で、北・東・南の面に高野・吉野・奈良等の方向を示しています。西面には嘉永4年（1851）の建立年と発願主を記している河合町内で最大の道標です。

18 大塚山古墳

5世紀後半築造の三段築成の前方後円墳。墳丘全長は197m、同時期では奈良盆地内で最大級の古墳です。遺物は、円筒埴輪・朝顔形埴輪・家形埴輪の円柱部分に小型の盾を付けたもの・盾形埴輪・蓋形埴輪・須恵器模倣土師器など。

19 城山古墳

大塚山古墳群で最後に造られた古墳。5世紀末から6世紀初頭の築造と考えられ、墳丘全長は109m、大塚山古墳と同様、同時期では奈良盆地内で最大級の古墳です。中世に砦として利用され、墳丘は変形していますが、三段築成と推測されています。

20 丸山古墳

二段築成で直径48mの大型円墳。5世紀後半の築造。

21 九僧塚古墳

二段築成で一辺約35mの方墳。大塚山古墳とはほぼ同時期に築造され、大塚山古墳の副葬品埋納施設と考えられています。

22 長林寺

創建以来、衰退と復興を繰り返し、文久2年（1862）に現在の形になった寺院。聖徳太子の建立と伝えられていますが、伽藍が整ったのは、飛鳥時代後期以降とされます。金堂が西に、塔が東にある斑鳩の法起寺式伽藍配置であったことを示す金堂基壇と礎石、講堂礎石、現長林寺の中庭に塔心礎が残っています。「長倉寺瓦」銘の丸瓦も出土し、古くは「長倉寺」とも呼ばれ、「穴闇」という地名は「長倉」の転訛と考えられています。



長林寺伽藍想定スケッチ

23 穴地蔵

安産に靈験があるとされる地藏尊。江戸時代の作と思われる地藏など小石仏6体が石屋形の中に安置されています。

24 文化財展示室

ナガレ山古墳の埴輪や勾玉をはじめ、町内の各遺跡の出土品が展示されています。見学希望の際は、事前に予約してください。入館無料、月曜・年末年始休館。利用時間9時～17時。予約 0745-57-2271

25 乙女山古墳

典型的な帆立貝形古墳として著名な古墳。墳丘全長は130mで、後円部直径103mに対し、前方部長30m、幅52mで極端に短く低平になっています。後円部には別に造り出しがあり、家形埴輪などが出土しています。また、墳丘の周囲には周濠と外堤が巡っています。

26 カタビ古墳群

馬見丘陵公園造成に先立つ発掘調査で4基の古墳が確認されました。1号墳（方墳）と3号墳（円墳）は大型古墳が盛んに築造された5世紀代に造られたもので、2号墳（円墳）と4号墳はほとんど古墳が築かれなくなった7世紀代の古墳です。

27 佐味田石塚1・2号墳

昭和59年、馬見丘陵公園中央エリア入口付近の県道工事の際に見えられ、同エリア内に移築保存されている古墳です。両古墳ともに堅穴の小石室で、1号墳の床面には飛鳥時代の瓦が敷き詰められていました。1号墳は7世紀前半、2号墳は6世紀後半に築造されたものです。

28 別所下古墳

直径60mの円墳、または全長60mの帆立貝形古墳と考えられています。4世紀後半の築造で、河合町内では佐味田宝塚古墳、ナガレ山北3号墳などと並ぶ最古の古墳です。

29 一本松古墳

全体的に開墾が著しいため詳細は不明ですが、墳丘全長150m、後円部直径90m、前方部幅60m程度の前方後円墳とされ、築造時期は4世紀後半と見られています。

30 ナガレ山北3号墳

ナガレ山古墳の北側に位置する直径約60mの円墳で、付近から出土した膳付円筒埴輪や朝顔形埴輪の特徴から、別所下古墳と同時期の4世紀後半の築造と考えられています。

31 ナガレ山古墳

約1600年前、5世紀初頭の築造とされる全長105mの前方後円墳。古墳頂上から当時の姿と現在の姿を同時に見比べられる全国でも珍しい古墳で、東側半分の葺石と埴輪列が復元されています。

32 倉塚古墳

現状で墳丘全長約180m、後円部直径106m、前方部幅70mを測る前方後円墳です。詳細は不明ですが、一本松古墳と同時期の築造と考えられます。

33 巢山古墳（広陵町）

墳丘全長220m、後円部直径110m、前方部幅94m、馬見丘陵最大の前方後円墳。両方のくびれ部に三角形の造り出しが付設され、墳丘の周囲には周濠と外堤が良好な形で残る特別史跡です。埋葬施設は、後円部墳頂に2基の堅穴式石室、前方部頂上に小規模な石室があったとされています。

34 教行寺

石山合戦で織田信長の軍勢に焼き払われ、天正8年（1580）に、摂津富田（高槻市）から現在の地に移ってきた寺院。境内には1843年に建てられた本堂や鼓楼が残されています。

35 陣ノ山古墳

墳頂部に盗掘穴がある直径約18mの円墳。戦国時代に陣が張られた場所とされており、法螺貝が吹かれた貝吹山と対をなしています。

36 貝吹山古墳

佐味田宝塚古墳の後円部北側にあった前方後円墳とされていますが、開墾のために墳丘の状態が不明です。明治18年（1885）に、銅鏡7面が出土しています。

37 佐味田宝塚古墳

全長112m、後円部直径60m、前方部幅45m、4世紀後半に築造された馬見丘陵内最古級の前方後円墳。明治14年（1881）に家屋文鏡を含む36面の銅鏡の出土で有名なほか、玉類・鉄形石・石釧・車輪石・石製盒子・琴柱形石製品・異形石製品・石製模造品（鏝・斧・鎌・剣・刀子・紡錘車・有孔円板）・巴形銅器・銅鍬・鉄刀・鉄剣・膳付円筒埴輪・形象埴輪（家・蓋・盾・鞆・草摺・短甲）など多数の遺物が出土しています。

38 貝吹山2号墳

佐味田宝塚古墳史跡指定地内南西部に位置する古墳で、直径約30mの円墳です。

39 牧野古墳（広陵町）

6世紀後半築造の直径約50mの円墳。全長17.1mの大型の横穴式石室が閉口しており、玄室には奥壁に沿って朝板式家形石棺が置かれています。舒明天皇の父である押坂彦人大兄皇子の成相墓の可能性がります。